

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（２）

### ～ マズローの欲求５段階説について ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦



石垣市教育委員会では、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める「勇気づけの教育」を推進しています。児童生徒の自己肯定感（自分への自信）を高めることは、自分のよさや可能性を自覚し、様々な活動に積極的に取り組むことができ、夢や希望に向かって歩むことができるからです。

児童生徒の自己肯定感を高めていく基本的な考え方として、「マズローの欲求５段階説」を知っておくことが大切になりますので簡単にご説明いたします。

アメリカの心理学者、アブラハム・マズロー（1908～1970）は、人間の欲求は５段階のピラミッドのように構成されていると考えました。一番下の１段目は「生理的欲求」、２段目「安全の欲求」、３段目「社会的欲求」、４段目「承認欲求」、５段目「自己実現の欲求」に分かれており、下位段階から順序よく欲求が満たされ、５段目の「自己実現の欲求」に向かっていくと提唱しました。

つまり、人（子ども）は、まず、食べる、寝るなどの生きていくための「生理的欲求」や心身ともに健康で、暴力など危険な目に遭わず安全で安心して暮らしたいという「安全の欲求」が満たされることがとても重要になります。この安心でききる欲求が満たされると、次に、親や友達、先生とつながりたい、集団に所属し役割を果たしたいという「社会的欲求」が高まります。社会的欲求が満たされると、今度は、所属する学級や集団の中で自分のよさや能力を認められたいという「承認の欲求」も高まり、周りに注目されることや、賞賛を求めるようになります。これを獲得することが、自分の能力が認められたということになり、さらに、その力を高めたい、自分にしかできないことを成し遂げたいという自己実現の欲求につながります。

言い換えると、児童生徒の夢や希望を叶えるためには、「生理的欲求」「安全の欲求」「社会的欲求」「承認の欲求」を満たす必要があるということになります。私は心理学の専門家ではないので、多少解釈の違いがあるかも知れませんが、マズロー欲求５段階説をご理解いただけたでしょうか。

そこで、想起していただきたいのが、本市児童生徒の自己肯定感が全国と比較すると１０％も低いことです。これは、子どもたちの「生理的欲求」「安全の欲求」である物質的欲求や「所属と愛の欲求」「承認の欲求」等の精神的欲求が十分に満たされていないということになります。

近年、日本においては、厳しい雇用情勢が家計に影響を与えている他、核家族化や少子化の進展による子育て家庭の養育力の低下、地域のつながりの希薄化による子育て支援機能の低下など、子どもの育ちや子育てをめぐる社会的・経済的な環境変化があります。そのような中、平成２７年に沖縄県が実施した調査における本県の子どもの貧困率は２９．９％で、全国１３．９％と比較して２倍となっています。本市においても同様の状況であり、子どもの貧困が子どもの生活と成長に影響を及ぼしていることが強く懸念されます。

そこで、石垣市教育委員会は、『本市の子どもたちの将来が、生まれ育った環境によって左右されることなく、一人の人間として尊重され、安心して学び、自分のよさや可能性を広げる学校づくりを目指す』を基本理念に、児童生徒の自己肯定感を高める大濱信泉プロジェクト「勇気づけの教育」を推進しています。今後も児童生徒の健やかな成長に向けた情報を提供していきますので、共に「勇気づけの教育」を推進していただきますようお願いします。